2023 年度入試問題集

■ 傾向と対策

■ 問題

■ 解答

AO 入試＜Ⅰ期＞ 公募制推薦入試＜前期＞ 一般入試＜前期＞

ST.MICHAEL'S K.I.U.

神戸国際大学

2023年度
傾向と対策

２０２３年度　英語　AO・公募制推薦入学試験【全学部共通】

傾向分析　読解問題が中心だが，文法や語彙の知識も問われる

1　出題形式は？

AO・公募制推薦入学試験ともに大問３題，解答数 20 問の構成で，全問マークセンス方式による四者択一となっている。試験時間は，国語または数学と合わせて 60 分である。

2　出題内容はどうか？

大問Ⅰは日常的な題材を取り上げた長文読解問題で，内容理解問題，語彙の意味を問う問題などが出題された。大問Ⅱは会話長文の空所補充問題で、会話の流れの理解が問われた。大問Ⅲも同じく空所補充問題であるが，会話表現や語彙の知識を問うものが中心に出題された。

3　難易度は？

長文内の単語や空所補充問題で問われる表現はいずれも基礎的なレベルであるため，基礎を固めておく必要がある。

受験対策

1　基礎力を充実させよう

大問Ⅰで語彙の問題として rude（AO 入試より）と motivate（公募制推薦入試より）の意味が問われた。ともにやや難しいものの標準的な英単語集の学習でカバーできるので，何度も繰り返して覚えよう。大問Ⅲは AO では会話文の空所補充，公募制では短文の空所補充となっており，形式は異なるが，扱われる英文法・語法は，基礎的なものがほとんどなので，高校の教科書や標準的な英文法・語法問題集を繰り返し学習することが大切である。

2　会話文の問題に慣れていこう

AO では大問Ⅱ，Ⅲ，公募制では大問Ⅱが会話文となっており，問題全体に占める割合が多い。AO も公募制も対話を重視しているといえるので，基礎的な会話表現については，標準的な英文法・語法問題集で繰り返し練習をして覚える必要がある。大問Ⅱの会話長文については，本学の過去問題や，会話文の問題集を用いて繰り返し学習することが重要である。

3　解く時間を意識して取り組もう

試験時間は２教科で 60 分なので，30 分で全問を解けるように意識して練習をする必要がある。大問Ⅲに２～５分必要なら，大問Ⅰ,Ⅱに割ける時間はそれぞれ 12～14 分程度となる。大問Ⅰの長文は 300 語ほどの分量なので，解く時間を短くするためには，少し長めの 300～400 語レベルの英文を集めた問題集などで負荷をかけて練習することが効果的である。さらに，受験対策1にある通り，基礎的な学習も不可欠である。

２０２３年度 数学 AO・公募制推薦入学試験【全学部共通】

傾向分析　典型問題を正確かつ迅速に解答できるかで合否が分かれる

1　出題形式は？

大問が５題出題され，大問Ⅰ・Ⅱは必答，大問Ⅲ・Ⅳ・Ⅴは３題から２題選択，合計で４題を解答する。大問Ⅰのみ小問集合で，他の大問はそれぞれ１つの単元から出題されている。英語，国語，数学から２科目を選択して，試験時間は２科目合わせて 60 分である。全問マークセンス方式の出題である。

2　出題内容はどうか？

出題範囲は数学Ⅰ・A である。必答問題の大問Ⅰ・Ⅱは数学Ⅰからの出題，選択問題の大問Ⅲ・Ⅳ・Ⅴは数学 A の「場合の数と確率」，「整数の性質」，「図形の性質」の３単元から１単元ずつの出題であった。

3　難易度は？

基本から標準レベルの問題がほとんどである。また，受験勉強で一度は解いたことがある問題，教科書の練習問題や参考書の例題などのような典型的な問題が多い。

受験対策

1　苦手な単元をなくし，丁寧な基礎固めを行っていこう

必答問題の大問Ⅰ・Ⅱは数学Ⅰからの出題なので，全範囲において苦手とする公式や穴がないようにしっかりと対策を立てておこう。数学Aは選択問題なので，あらかじめ２単元に絞って勉強したくなるが，年度によって出題されるテーマや難易度が異なるので，３単元とも対策しておき，当日に解くことのできる問題から選択できる方が有利になる。

2　答えが合うかにこだわり，徹底した演習をしていこう

全問マークセンス方式なので，答えが一致してはじめて点数となる。解く方針が同じであっただけでは点に結び付かないため，計算ミスは致命的である。そのため，日々の演習では，解法を思いつくのはもちろんのこと，実際に自分の手を動かして問題を解き，答えが合うまで解いていくことが大切である。

3　入試問題を分析し，継続的な対策をしていこう

試験中に数学１科目にかけられる時間は 30 分，問題数は大問１つに小問が３つあることから，小問１つを３分程度で解く必要がある。過去問題を解いてみると，要求されているスピードを実感できるだろう。正確かつ迅速な計算力をつけるには，日々の演習で時間を計って解くことを，入試当日まで継続することが大切である。

２０２３年度　国語　AO・公募制推薦入学試験【全学部共通】

傾向分析　事前の対策が何よりも重要、問題を速く正確に解く力が高得点のカギ

1　出題形式は？

試験時間は英語または数学と合わせて 60 分となっており，マークセンス方式で解答する形となっている。AO 入試・公募制推薦入試ともに，論理的文章を題材にした大問Ⅰと四字熟語，ことわざ・慣用句などの国語の知識を扱った大問Ⅱとの 2 題構成となっている。

2　出題内容はどうか？

論理的文章を題材にした大問Ⅰにおいて，国語の知識に関する問題が出題されていることに特徴がある。読解問題としては，接続語や語句の空欄補充問題，傍線部分の内容や理由を問う問題，内容合致問題が出題されている。また，大問Ⅱではことわざや慣用句に関する問題が出題されている。

3　難易度は？

漢字の書き取り，四字熟語，ことわざ，慣用句などの国語の知識を問う問題は，しっかり準備しておけば高得点が期待できます。読解問題の文章量については，約 2000 字と比較的短めであり，問題文の内容も比較的取り組みやすい内容となっている。

受験対策

1　漢字・国語の知識の対策を万全にしておこう

漢字問題や四字熟語，ことわざ，慣用句など国語の知識問題の出題が多いので，必ずこの分野の強化に取り組もう。知識問題でどのような問題が出題されているのかを把握するため，過去問題に取り組むことから始め，その後は，漢字の問題集や，四字熟語，ことわざ，慣用句などを扱った問題集に計画的に取り組むようにしよう。

2　問題演習で読解力を向上させよう

読解問題についても，過去問題に取り組み，出題形式や難易度について把握していこう。その後は，その問題傾向や自分の実力に応じた問題集を用いて論説文の問題演習を行うことが大切です。読解力を高めていくことは，他教科での問題文の読解力を高めていくことにもつながるので，軽視せずに取り組んでいこう。

3　現代的なテーマに関心をもち，さまざまな文章を読もう

今年度は AI を話題にした文章やウイルスを話題にした文章など現代的なテーマの文章が用いられています。現代的なテーマについて興味をもち，それらに関する文章を読んでおくことは，本学の国語の問題を解くうえでも有利であり，何より大学での学びや今後この社会を生きていく上での知識の土台となります。受験勉強を機にさまざまな文章に触れてみよう。

２０２３年度　英語　一般入学試験【全学部共通】

傾向分析　長文，対話文による読解問題が中心。文法や語彙の知識も問われる

1　出題形式は？

大問４題，解答数 30 問の構成で，全問マークセンス方式で四者択一である。試験時間は 60 分である。

2　出題内容はどうか？

大問Ⅰの長文読解問題では内容と合致する選択肢を選ぶ問題，空所補充問題などが出題された。大問Ⅱは会話文問題で，文中の空所に入れる適切な語句を選ぶ問題であった。大問Ⅲ，大問Ⅳは空所補充問題で，大問Ⅲでは会話表現，大問Ⅳでは文法の知識が問われた。

3　難易度は？

長文内に登場する単語や空所補充で問われる文法，表現は基礎レベルであり，高校 3 年生までの学習範囲の基礎を固めておくことが重要である。

受験対策

1　語彙・文法の着実な学習を行おう

標準的なレベルの英単語集や，英文法・語法の問題集で練習を繰り返し，語彙力と文法力を確実に身につけることが大切である。大問Ⅰで，語彙の意味が３題出題され，今後も出題される可能性があるので，語彙については着実な学習の積み重ねが必要となる。大問Ⅲ，Ⅳの空所補充問題の対策は，不正解の選択肢の根拠も考えることである。不正解の選択肢が，別の問題で正解の選択肢として出題されることもあるので，いろいろな問題に対処できるように備えよう。

2　時間内に長文を読み解こう

大問Ⅲ，Ⅳを合計 10 分で解くとすれば，大問Ⅰにはおよそ 25～30 分，大問Ⅱには 20～25 分ほど時間をかけることができる。大問Ⅰでは 380 語前後の長文が出題されたので，300～400 語レベルの長文読解の問題集で，解く時間を意識して練習を繰り返そう。大問Ⅱでは 280 語前後の会話文が出題された。会話文としては長めの語数なので，会話文の問題集で対策をしておこう。

3　話の流れを追う力を身につけよう

大問Ⅰでは代名詞の指示内容を問う形や，短文の空所を完成させる形で，説明文の論旨を把握する力を試している。短文の空所完成問題については，設問を先に読んでキーワードになりそうな語句に印をつけておき，本文で該当箇所を探す読み方が有効である。大問Ⅱでは，会話文中の空所の前後を正確に読み取って，適切な発言を選ぶ力を試している。過去問題や問題集で身につけることができるので，練習を繰り返すことが大切である。

２０２３年度　数学　一般入学試験【全学部共通】

傾向分析　基本をふまえて自分の力で最後まで解き切る力が求められている

1　出題形式は？

必答問題として大問３題，選択問題として大問３題から２題を選択し，合計５題を解答する。各大問に小問は３問ずつあるので，小問数は 15 問である。全問マークセンス方式の出題で，試験時間は 60 分である。

2　出題内容はどうか？

出題範囲は数学Ⅰ・A である。必答問題の大問Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは数学Ⅰの全単元よりまんべんなく出題されている。選択問題の大問Ⅳ，Ⅴ，Ⅵは数学Ａの３単元「場合の数と確率」,「整数の性質」,「図形の性質」から１題ずつが，それぞれ出題されている。なお，大問Ⅰのみ小問集合である。

3　難易度は？

基本～標準レベルの典型的・定型的な問題が中心である。教科書で見たことがないような応用問題や，発想を大きく転換しなければ解けないような難問は出題されていない。ただし，後半の小問ほど，応用する力が試される問題が出題されている。

受験対策

1　数学Ⅰは徹底的に演習をしておこう

必答問題は数学Ⅰから出題されるので，数学Ⅰのすべての単元をまず仕上げよう。そのためには，基本から標準的な問題が載っている教科書傍用の問題集など，１冊を自分の力だけで解けるまで，徹底的に反復練習をすることが大切である。その上で，数学Ａの対策をしよう。選択問題に対処するために，数学Ａの全３単元から２単元のみを対策するのではなく，３単元とも演習を積もう。試験当日に解きやすい問題を選ぶことが可能となり，有利になるであろう。

2　解答が合うまで反復しながら演習をしておこう

全問マークセンス方式で，途中の式や考え方などの記述を要求されることはない。一方，部分点が得られないため，答えが一致しないと全く点数にならない。日頃の演習では，解法を覚えるだけでなく，自分の手を動かし，正答にたどり着くまで演習しよう。また，計算ミスに対しては，原因を確認し，次に同じミスをしないように対策を考えて，確実に点数を積み上げよう。

3　出題形式に慣れるために過去問題を解いておこう

テーマに多少の違いはあるが，出題形式は前年と同じである。また，大問Ⅱ～Ⅵは，後の小問が前の小問と関わりのある構成なので，このような形式に慣れることも必要である。そのためにも，他日程も含め過去問題を解いておこう。過去問題を解く際は，必ず時間を計って解くことを心がけよう。時間配分の練習をすることで，解答の時間的余裕のない本番でも慌てないだろう。

２０２３年度　国語　一般入学試験【全学部共通】

傾向分析　**標準的な問題、多角的な出題で論説文の読解力が試される**

1　出題形式は？

例年，2000～2400 字ほどの論説文を題材とした大問２題が出題される。解答数は各大問とも 16 問で，計 32 問ある。解答形式は５つの選択肢から正答１つを選ぶ択一式で，マークセンス方式である。試験時間は 60 分である。

2　出題内容はどうか？

問題文に応じて出題が変わるのではなく，固定化された形式・内容で出題がなされるのが本学の特徴である。例年，問１…漢字問題，問２…言葉の意味を問う問題，問３…接続語・重要語の空欄補充問題，問４～問８…内容説明・理由説明・空欄補充問題（順不同），問９…脱文挿入問題，問 10…内容合致問題という出題構成となっている。

3　難易度は？

出題される文章は入試問題としては比較的短く，内容的にも難しいものではない。設問についても極端に難しいものはなく，標準的なレベルといえる。ただし，それだけにとりこぼしはなくしておきたい。

受験対策

1　問題演習で読解力の強化を図ろう

問題集を用いて論説文読解の問題演習を行い，読解力の向上を図ろう。そのためには，漫然と問題に取り組むのではなく，なぜその答えになるのかということを意識して問題に取り組もう。そして，解いた後は必ず解説を読んで復習を行うことが重要である。また，過去問題にも定期的に挑戦し，学習の方向性や配分を調整するために役立てていこう。

2　漢字練習は毎日少しずつ行おう

漢字問題は学習すればするだけ確実に力をつけていくことができる。出来るだけ毎日取り組み，この分野でとりこぼしがないようにしておきたい。漢字をただ書けるようになるというのではなく，その意味・用法をしっかり押さえることも重要である。例えば，「追及」「追求」「追究」など，同じ読みでも文脈によって使う漢字が異なる言葉は，意味・用法を理解しておこう。

3　文章に触れる機会を多くもとう

文章を読む力をつけるには，まず日常生活のなかで文章に触れる機会を多くもつことが大切である。教科書や新聞，読書等を通じて幅広いジャンルの文章を読むようにしたい。苦手な人は，短いものを読むことから始め，少しずつ長い文章に取り組むようにしよう。また，文章の内容を短くまとめたり，文章の組み立てについて考えてみたりすると理解がより深まるであろう。

２０２３年度　生物　一般入学試験　【リハビリテーション学部】

傾向分析　図，文章，実験を題材に問題が作成されており，確実な内容把握が必要になる

1　出題形式は？

大問４題，小問 30 問強からなるマークセンス方式の試験である。大問Ⅰ～Ⅳはすべて A, B に分かれており，一部の問題が分かれていた前年度とは少し出題形式が異なっている。しかし，どの問題も文章を読みながら答えていく形式で，この点は前年と同じである。試験時間は 60 分で，最後まで考える時間は十分にあると思われる。

2　出題内容はどうか？

生物基礎（生物の特徴，遺伝子とそのはたらき，生物の体内環境，物質循環）と生物（生命現象と物質，代謝，遺伝情報の発現，生物の環境応答）からの出題である。生体の構成成分，同化と異化，DNA の合成，ヒトの体内ホルモン，眼のつくり，植物ホルモン，タンパク質合成，発生のしくみ，血液と免疫，ヒトの神経系に関して出題され，幅広い知識が要求されている。

3　難易度は？

実験問題を含めて教科書の内容が中心となっており，基礎知識と実験方法の正確な読み取り方が身についていれば解ける問題である。DNA やタンパク質の合成，ホルモンなどは細かい内容も出題されているため，それらに関係する各細胞のはたらきについて正確な理解が必要となる。

受験対策

1　実験方法や目的の正しい理解と，結果から得られる結論をきちんと理解しよう

実験・考察を題材にした問題は毎年出題されている。生物の問題ではさまざまな実験が取り扱われているが，「問題集や模擬試験，共通テストの過去問題」などで見たことがある問題も多いため，問題集を使って学習するときには解答集をきちんと読み，実験方法やその結果の正しい見方ができるようにしよう。

2　似たような用語をきちんと区別できる力を養おう

生物では，まず教科書に記載されている用語を暗記するだけでなく，その用語の意味についてもきちんと理解しておくことが大切になる。ただ覚えておくだけではその用語をどこでどのように答えればよいのかわからず，正しい解答を導くことができない。用語と同時に教科書の中でどのように使われているかも覚えておこう。

3　問題文を正確に読んで内容をきちんと理解できる力をつけよう

各大問の中問 A，B ごとにテーマとなる長文や図表が設けられそのテーマについて設問が展開される。設問は空欄補充などの典型的な問いのほかに，正しい図を選ばせる問題も散見される。そのため，一問一答的な言葉で覚える知識だけでなく，視覚的なイメージを身につけるようにしよう。